

6/28  
系産

# 子どもの貧困13・9%

厚労省調査 7人に1人 依然高水準

18歳未満の「子どもの貧困率」(相対的貧困率)は13・9%(2015年)で、

D) 加盟国の平均13・3%を上回っており、依然として深刻な実態です。

全国民のうち相対的貧困率は15・6%。前回調査より0・5㌽の微減ですが、OECD加盟国の平均11・3%に並べ、中央値の半分に満

どが27日、厚生労働省が発表した16年国民生活基礎調査で分かりました。前回調査(12年時16・3%)から2・4㌽減少したものの、経済協力開発機構(OECD)の「子どもの貧困率」(相対的貧困率)は82・7%にものぼりました。相対的貧困率は全国民の可処分所得(実収入から税金などをのぞいた額)を順位づけ、中央値の半分に満たない人の割合です。15年は122万円未満の人が該当します。該当額は97年時点より27万円も減少しており、低所得世帯の増加を示しています。↓関連⑭面